



平成27年度 内閣官房委託調査

竹島に関する資料調査報告書

平成27年度 内閣官房委託調査

竹島に関する資料調査報告書

平成28年3月 株式会社ストリームグラフ

平成28年3月 株式会社ストリームグラフ

目次

- 1 はじめに…………… 1
- 2 対象資料…………… 1
- 3 事業の方針…………… 2
- 4 研究チームのメンバー…………… 2
- 5 調査結果（概要）
 - (1) 成果概要…………… 3
 - (2) 調査経過…………… 4
 - (3) 資料収集先と収集資料…………… 5
- 6 研究委員会の開催…………… 6
- 7 資料例
 - 資料例1…………… 7
 - 資料例2…………… 14
 - 資料例3…………… 19
- 8 あとがき（研究チーム）…………… 21

1 はじめに

株式会社ストリームグラフは、平成27年度、内閣官房領土・主権対策企画調整室の委託に基づき、主に鳥根県・鳥取県・東京都に存在する竹島に関連する資料を調査・整理の上、研究等に活用できる資料の目録及び画像データを作成することを目的とした「竹島に関する資料の調査」の事業を行った。事業は、専門家による研究チームを立ち上げ、有識者から構成される「研究委員会」の助言の下、平成27年7月から平成28年3月までの間実施した。この報告書は、その結果を取りまとめたものである。

なお、この調査は必ずしも包括的なものではなく、また、本報告書に記載される内容及びこの事業における資料の収集・選定は、研究委員会の助言を踏まえて研究チームの判断に基づき作成及び実施されたものであり、政府の見解を表すものではない。

2 対象資料

竹島の研究に資するため、江戸時代以降、1950年代までの時期を中心に、主に鳥根県・鳥取県・東京都に存在する資料の調査・整理を行った。事実関係を示す資料を中心とし、所在を確認するとともに可能な限り画像データとして収集・整理した。

3 事業の方針

これまで竹島に関連する資料は、鳥根県竹島問題研究会や同研究会に係る専門家によってその所在の特定や収集が行われ、さらに、昨年度（平成26年度）に内閣官房領土・主権対策企画調整室の委託に基づき実施された鳥根県における竹島に関する資料の調査事業によって資料が体系的に整理され、「竹島資料ポータルサイト」としてその一部がネット上で公開されるに至っている。

今年度の事業では、対象とする資料の作成年代を江戸時代以降とし、さらに、調査範囲を鳥根県から鳥取県・東京都に拡大することで、竹島関連調査資料の一層の充実とその体系化を目指した。鳥根県では、昨年度に引き続き、隠岐郡、松江市、浜田市における実地調査を中心に行い、江戸時代の資料や漁業関連資料の収集を行った。

鳥取県では、鳥取藩政資料等、江戸時代の資料や報道資料の調査を行い、東京都においては、外務省外交史料館、国立公文書館及び国立国会図書館を中心として、各機関に所蔵されている公文書・絵図・地図・海図等の調査・収集を行い、さらには東京海洋大学図書館（品川）等で漁業関連資料を調査した。

収集した資料は、竹島資料ポータルサイトに掲載されることを念頭に、公文書・報道資料・その他資料に区分し、タイトル、編著者、内容見本、資料概要、利用方法等を付して体系的に整理を行い、資料目録及び画像データとしてとりまとめた。

また、本事業の下で研究チームが行う調査及び収集資料について助言を受けるため、有識者による研究委員会を設置した。

4 研究チームのメンバー

研究チームは、竹島に関する資料の調査、整理、確認、画像データ化を行った。メンバーは次の通りである。

(メンバー)

調査統括	藤井 賢二	鳥根県竹島問題研究顧問 (本事業の研究委員会委員を兼務)
主任研究員	山崎 佳子	鳥根県竹島問題研究会委員(第二・三期)
研究員	内田 てるこ	鳥根県竹島資料室嘱託員
事業統括	大崎 博之	株式会社ストリームグラフ取締役

5 調査結果(概要)

(1) 成果概要 ～島根県・鳥取県・東京都にある竹島に関連する資料約450点の所在を確認し、目録及び画像データを作成～

島根県・鳥取県・東京都にある約450点の竹島に関連する資料の所在を確認し(公文書約120点、報道資料及び私資料約330点)、目録及び画像データの作成を行った。

主な資料の内容としては、以下が挙げられる。

(ア) 鳥取藩政資料をはじめとする島根・鳥取両県に残る江戸時代の資料および、17世紀以降に作成された公文書・絵図・地図・海図等。

(本報告書で紹介する資料例のうち、1が該当)

(イ) 1905年の竹島の島根県編入及びその後の竹島の利用に関する資料。

(本報告書で紹介する資料例のうち、2が該当)

(ウ) 戦後、韓国による「隣接海洋に対する主権に関する宣言(いわゆる「李承晩ライン宣言」)」以降の状況に関する資料。

(本報告書で紹介する資料例のうち、3が該当)

(2) 調査経過

期間	実施内容	対象地区・機関・調査内容等
平成27年7月14日	東京都資料調査	東京海洋大学
7月15日	第1回研究委員会	調査実施方針・工程計画について確認
7月23日	島根県資料調査	島根県(公文書センター・竹島資料室)
7月24日～27日	第1回隠岐調査	西ノ島町個人宅、西ノ島ふるさと館、隠岐の島町個人宅を訪問 竹島(及び鬱陵島)に関する聞き取り・資料調査を実施
8月3日～4日	東京都資料調査	東京都公文書館、防衛省防衛研究所図書館
8月5日～7日	鳥取県資料調査	赤碓地区郷土史家宅・倉吉地区個人宅を訪問し、 竹島(及び鬱陵島)に関する聞き取り・資料調査を実施 鳥取県立博物館、鳥取県公文書館、鳥取県立図書館の所蔵調査
8月11日～12日	第2回隠岐調査	西ノ島ふるさと館、海士町個人宅を訪問 竹島(及び鬱陵島)に関する聞き取り・資料調査を実施
8月14日～29日	東京都資料調査	外務省外交史料館、国立国会図書館、東京大学(総合図書館・史料 編纂所・明治新聞雑誌文庫・東洋文化研究所)、中央水産研究所 図書資料館、国立公文書館、国文学研究資料館
8月25日～27日	鳥取県資料調査	鳥取県水産試験場、境港市市民図書館
9月3日～13日	島根県資料調査	島根県水産技術センター、浜田市立郷土資料館、石見安達美術館
9月8日	東京都資料調査	東京大学史料編纂所、国立国会図書館
9月9日	鳥取県資料調査	米子市立図書館、米子市立山陰歴史館
9月13日～16日	第3回隠岐調査	西ノ島町、隠岐の島町個人宅を訪問 竹島(及び鬱陵島)に関する聞き取り・資料調査を実施
9月17日～	島根県資料調査	島根大学(このほか、資料の照合等の作業のため、京都大学、 大阪大学、神戸市立図書館を訪問) ※以降、継続的に各機関を訪問
10月2日～	資料収集(撮影)	調査を実施した各機関を訪問し、資料の撮影(電子化)を実施
11月5日	第2回研究委員会	資料収集結果の確認。目録作成にあたっての議論
11月6日～	関連調査の継続	研究委員会等における指摘事項の確認や、竹島の利用・開拓に 関連する資料の調査を継続。東海大学海洋学部、海上保安庁 海洋情報部、西ノ島ふるさと館等を訪問
平成28年 2月23日	第3回研究委員会	最終成果の確認。目録記載事項に関する議論

(3) 資料収集先と主な収集資料

資料収集先	主な収集資料
島根県公文書センター	明治期以降の公文書のうち、国からの指令、県の伺等
島根県竹島資料室	戦後の海上保安庁による竹島巡視に関する資料、中井金三関連書籍等
島根県飯南町	鬱陵島への渡航を禁止する布達を含む県例規の綴り
島根県立図書館	『松陽新報』や『石見タイムズ』など島根県の地方紙、江戸時代の資料
島根県水産技術センター	島根県水産試験場の漁業試験関連資料
島根大学附属図書館	『米子村川大谷両家作竹嶋渡海書上写』『隠岐古記集』等の歴史資料
浜田市浜田郷土資料館	鬱陵島への渡海禁制の御触れが書かれた高札等、天保竹島一件関連
浜田市立図書館	「朝鮮竹島渡航始末記」(天保竹島一件関連資料)、江戸時代の地誌等
石見安達美術館	天保竹島一件による鬱陵島渡海禁止の御触書の受け取りに関する文書
西ノ島ふるさと館	鬱陵島・竹島へ渡海した人々に関する江戸時代・明治時代の資料
鳥取県公文書館	竹島を撮影した鳥取県水産試験場の旧蔵写真帳(複製物)
鳥取県立図書館	『因伯時報』や『日本海新聞』などの鳥取県の地方紙、中井金三関連資料
鳥取県立博物館	鳥取藩政資料(『控帳』『御用人日記』等)岡嶋家資料(『竹島渡海由来記抜書』等)
鳥取県水産試験場	日本海の漁業資源調査に関する資料や旧蔵写真帳3冊
米子市立図書館	『日本海新聞』などの鳥取県の地方紙『村川家文書』等の歴史資料
米子市立山陰歴史館	大谷家寄贈資料(奉書の写し、古文書、幕府から拝領した「船印」や「時服」)等
倉吉博物館	竹島渡航経験者で、中井金三が描いた「竹島」の油絵のデジタル資料

資料収集先	主な収集資料
外務省外交史料館	鬱陵島・竹島に関わる外交文書、竹島の島根県編入に関する公文書等
国立国会図書館	天保竹島一件関連資料、朝鮮総督府水産試験場の報告書、鬱陵島・竹島に関わる公文書、記録、古絵図・地図・海図・水路誌、戦後の外務省による調査資料、諸外国の竹島に関する認識を示す資料等
国立公文書館	鬱陵島・竹島に関わる公文書、記録、古絵図・地図・海図・水路誌、諸外国の竹島に関する認識を示す資料等
防衛省防衛研究所図書館	鬱陵島・竹島に関わる記録、海図、水路誌
海上保安庁	明治41年8月に測量した竹島の実測図、明治41年から大正2年までの鬱陵島および竹島の位置情報が記載された資料、海図等
国文学研究資料館	江戸時代の国絵図、隠岐水産高校の竹島における実習の予定が示されている資料、鬱陵島の開発願等
東京都公文書館	松島(現在の鬱陵島)への渡航を禁じた明治16年の内務省令達が記載された法令集等
東京大学総合図書館	江戸時代の絵図、天保竹島一件関連資料、韓国関連資料
東京大学史料編纂所	大谷氏・村川氏関連資料、江戸時代に描かれた鬱陵島・竹島の絵図(写しを含む)や中国の歴史地図帳
東京大学大学院明治新聞雑誌文庫	松島(現在の鬱陵島)への渡航を禁じた明治16年の内務省令達を東京府知事が公布した新聞等
中央水産研究所図書資料館	日本海における漁業関連資料
東京海洋大学附属図書館(品川)	島根・鳥取両県水産試験場の漁業試験報告

6 研究委員会の開催



研究委員会は、事業実施期間中3回開催した。メンバー及び各回の内容は以下のとおりである。

メンバー(委員) ※順不同

塚本 孝	東海大学法学部教授
高井 晋	笹川平和財団海洋政策研究所 島嶼資料センター特別研究員
中野 徹也	関西大学法学部教授
浅羽 祐樹	新潟県立大学大学院国際地域学研究科教授
杉原 隆	島根県竹島資料室特別顧問
藤井 賢二	島根県竹島問題研究顧問

回次	内容
第1回研究委員会 (平成27年7月15日開催)	事業目的・実施方針を確認し、調査対象とする資料・調査計画・実施工程について助言を行うため、意見交換を行った。
第2回研究委員会 (平成27年11月5日開催)	調査の進捗及び収集資料の内容を確認し、資料のとりまとめおよびその提供方法等について助言を行うため、意見交換を行った。
第3回研究委員会 (平成28年2月23日開催)	最終成果について確認を行うとともに、今後の課題について整理し、本事業の総括を行った。

7. 資料例1

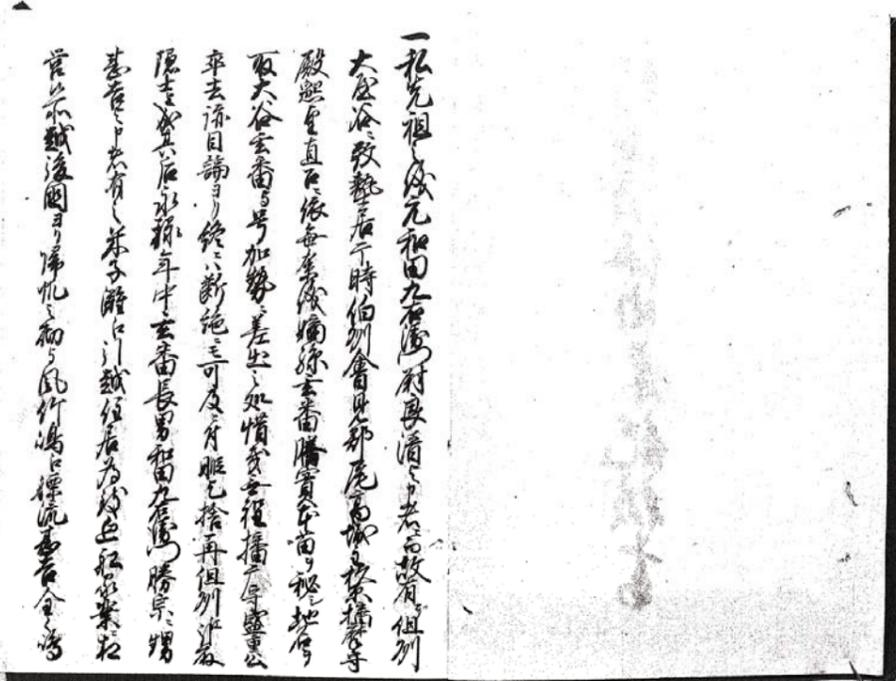
1 竹島渡海由来記抜書

大谷家の由緒と竹島(現在の鬱陵島)渡海の由来に関わる記録。米子の大谷・村川両家は江戸時代の初期17世紀に幕府の許可を得て竹島(現在の鬱陵島)へ出漁し、行く途中にある松島(現在の竹島)でも漁を行っていたことが示されている。岡嶋家8代正脩が、明治元(1868)年、筆写したと考えられる。

作成年月日 : 1868年(明治元年)2月
 編著者 : 大谷九右衛門勝広
 発行者 :
 収録誌 :
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 47ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 鳥取県立博物館
 利用方法 : 鳥取県立博物館で利用許諾手続きを行う

内容見本:
 一私先祖之儀元和田九右衛門尉良清と申者
 にて故有テ但州大屋谷ニ致蟄居于時伯州会
 見郡尾高城主杉原播磨守殿懇望直召ニ依無
 余儀嫡孫玄蕃勝実本苗ヲ秘シ地名ヲ取大谷
 玄蕃と号加勢ニ差出之処

※一、私の祖先は元和田九右衛門尉良清(わだきゆうえもんじょうよしきよ)という者で、訳があつて但馬国(現兵庫県)大屋谷に自宅謹慎していたが、伯耆国(現鳥取県)会见郡尾高城主の杉原播磨守殿に呼び寄せられ、しかたなく孫の玄蕃勝実に、本名を伏せ地名を取って大谷玄蕃と名乗らせ加勢に差し出したところ…



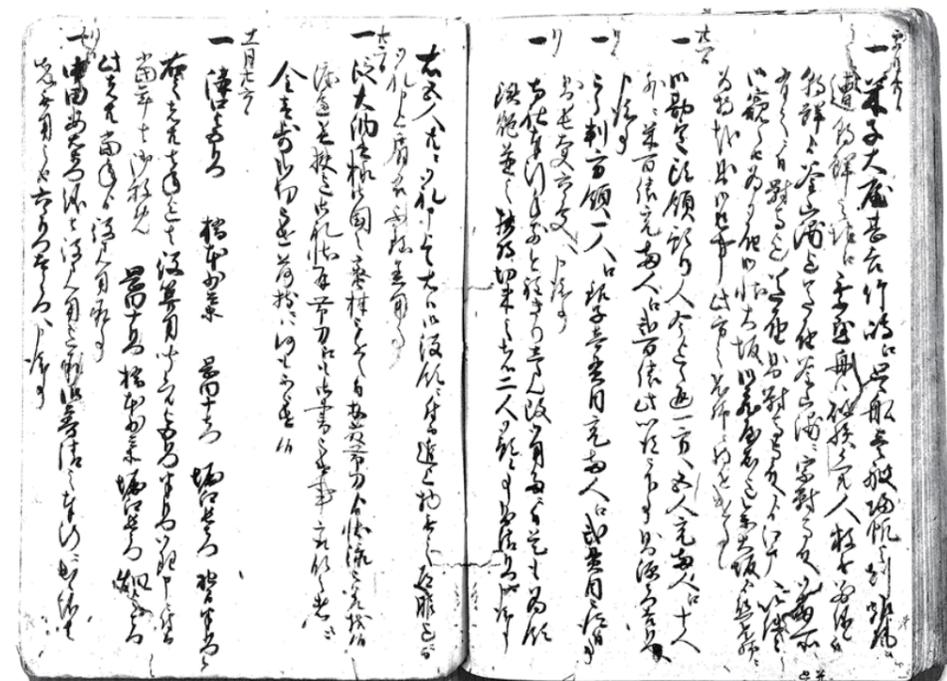
2 「鳥取藩政資料「控帳」に見る竹島・松島関係資料」

米子の大谷・村川両家が交替で竹島(現在の鬱陵島)への渡海を継続する中で、この年渡海した大谷家の船が、帰帆の途中遭難した事件の鳥取藩の記録。大谷・村川両家は江戸時代の初期17世紀に幕府の許可を得て竹島(現在の鬱陵島)へ出漁し、行く途中にある松島(現在の竹島)でも漁を行っていた。

作成年月日 : 1666年(寛文6年)11月20日
 編著者 :
 発行者 :
 収録誌 : 寛文六丙午年 控帳 十三 正月日
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 1ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 鳥取県立博物館
 利用方法 : 鳥取県立博物館で以下の番号と資料名で利用申請を行う。『鳥取藩政資料目録』資料番号2517、資料名「家老日記(控帳) 寛文6年」

内容見本:
 一、米子大屋甚吉竹嶋江廻候船壹艘帰帆之刻難風ニ遭朝鮮之地江乗懸舟ハ破損候へ共人数無別儀候付朝鮮より釜山浦迄送届釜山浦ニ宗対馬殿御番所有之二付対馬迄送届則対馬守殿より江戸へ以使者御窺之由為御届御状大坂御蔵屋敷迄参大坂より熊脚脚ニ為持越則御返事此方之飛脚ニ持せ遣事候

※米子大屋甚吉持ち船一艘が、竹嶋からの帰りに遭難して船は壊れたが船員は全員無事だった。船員は朝鮮国から朝鮮釜山浦にある宗家の番所に届けられ、釜山浦から日本の対馬へ着いたことを宗家から江戸幕府へ連絡の書状が出された。その使者が大坂蔵屋敷に着いたとき、この遭難の内容がわざわざ鳥取藩へも連絡があった。

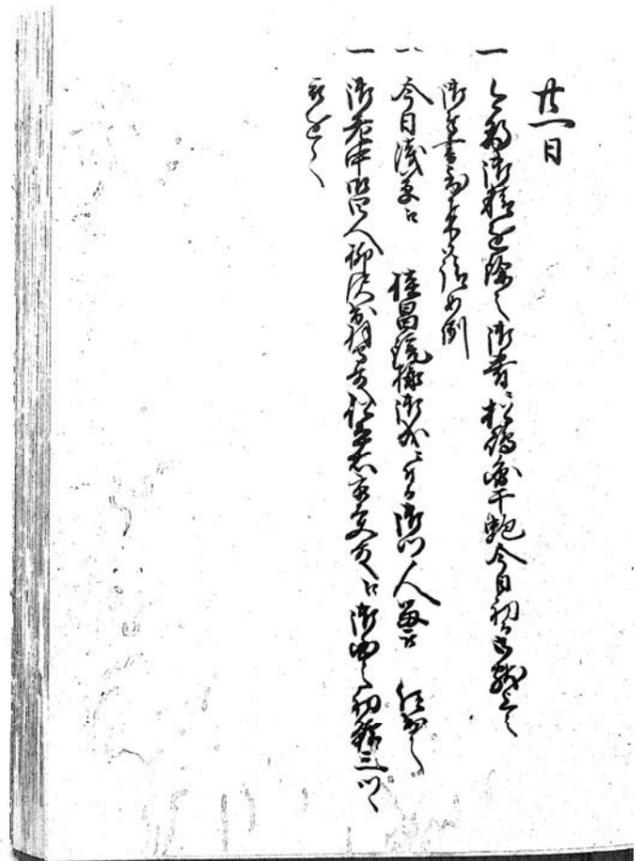


3 〔鳥取藩政資料「御用人日記」に見る竹島・松島関係資料〕

松島円干匏(現在の竹島で採取した匏を丸干しにしたと考えらえるもの)を献上したことが書かれている。

作成年月日 : 1695年(元禄8年)9月21日
 編著者 : 鳥取藩
 発行者 :
 収録誌 : 元禄八年 御在江戸日記
 亥七月朔日より十二月二十九日迄
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 1ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 鳥取県立博物館
 利用方法 : 鳥取県立博物館で以下の番号と資料名で利用申請を行う。『鳥取藩政資料目録』
 資料番号3725、資料名「御用人日記元禄8年7月-12月」

内容見本:
 一 今朝御精進除之御肴ニ松島円干匏今日初而御献上之御奉書到来御請如例
 ※一、今朝ご精進除の御肴として松島円干匏(まる干し匏)を今日初めて献上された旨の知らせが来た。いつもの通り返事をした。



4 松島之図

米子町村川家所蔵の写。
 松島(現在の竹島)のみ描いた絵図。

作成年月日 : 1895年(明治28年)
 編著者 :
 発行者 :
 収録誌 :
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 1ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 東京大学史料編纂所
 利用方法 : 東京大学史料編纂所で利用許諾手続きを行う

内容見本:
 松嶋之絵図、嶋之惣廻り壹里之内
 隠岐国より松嶋江之渡海道範百里餘
 松嶋より竹嶋江道範三十里餘

※松島の絵図、島の周囲1里の内。隠岐国より松島へ渡海の距離100里あまり。松島より竹嶋への距離30里あまり。



5 竹島渡海船の葵紋入り船印

江戸時代に竹島(現在の鬱陵島)および松島(現在の竹島)の渡海を行っていた大谷家が、幕府から拝領した船印の旗。渡海の際、船に掲げていたとされ、現在は衝立に仕立てられている。米子市指定文化財。



作成年月日 : 17世紀
 編著者 :
 発行者 :
 収録誌 :
 言語 :
 媒体種別 : 現物
 数量 :
 公開有無 :
 所蔵機関 : 米子市立山陰歴史館
 利用方法 : 米子市立山陰歴史館で利用許諾手続きを行う

6 徳川二代将軍秀忠から拝領の時服

江戸時代に竹島(現在の鬱陵島)および松島(現在の竹島)への渡海を行っていた大谷家が、渡海の功勞により、将軍の御目見を許された時に拝領した時服。米子市指定文化財。



作成年月日 : 17世紀
 編著者 :
 発行者 :
 収録誌 :
 言語 :
 媒体種別 : 現物
 数量 :
 公開有無 :
 所蔵機関 : 米子市立山陰歴史館
 利用方法 : 米子市立山陰歴史館で利用許諾手続きを行う

7 大東輿地圖

朝鮮王朝時代の地図製作者による朝鮮全図。折本、筆彩。1861年の木版本と異なり、画像の本の鬱陵島図には韓国が竹島であると主張する于山島が描かれているが、その位置(原図に当たる青邱図は方眼図)及び形状から、この于山は現在の竹島ではない。

作成年月日 : 1861年以降
 編著者 : 金正浩
 言語 : 韓国語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 1ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 国立国会図書館
 利用方法 : 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧(14巻)

内容見本:
 于山



出典: 国立国会図書館デジタルコレクション

8 渡邊洪基松島ノ議 稿本

明治9年、外務省記録局長渡邊洪基が書いた松島に関する調査報告書。竹島考証に収録しているものの原本。稿本と清本がある。「而て此「ホルネットロックス」(西欧の一部の地図に記載されていた島)の我国に属するは各国の地図皆然り。」と、竹島が日本領との認識を示している。

作成年月日 : 1876年(明治9年)
 編著者 : 外務省
 発行者 : 外務省
 収録誌 : 「鬱陵島に於ける伐木関係雑件」
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 26ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 外務省外交史料館
 利用方法 : 国立公文書館アジア歴史資料センター
 ウェブサイトで閲覧

内容見本:
 我松嶋ナル者ハ洋名ホルネットロックスナルカ如シ
 然ルヲ洋客竹嶋ヲ認テ松嶋ト為シ更ニ竹嶋ナル者
 ヲ想起セシ者ノ如シ而テ此ホルネットロックスノ 我
 国ニ属スルハ各国ノ地図皆然リ



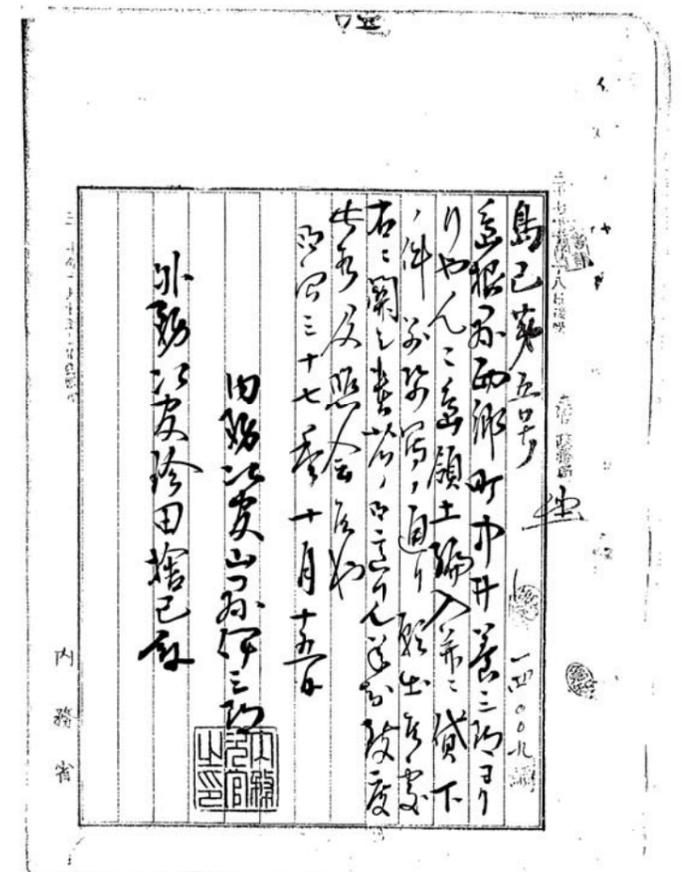
資料例2

9 島己第五号

隠岐の中井養三郎が提出した竹島の領土編入と貸下の願書。

作成年月日 : 1904年(明治37年)
 編著者 : 外務省
 発行者 : 外務省
 収録誌 : 「帝国版図関係雑件」
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 9ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 外務省外交史料館
 利用方法 : 国立公文書館アジア歴史資料センター
 ウェブサイトで閲覧

内容見本:
 島根県西郷町中井養三郎ヨリやんこ島領土
 編入並ニ貸下ノ件別添写ノ通り願出候処

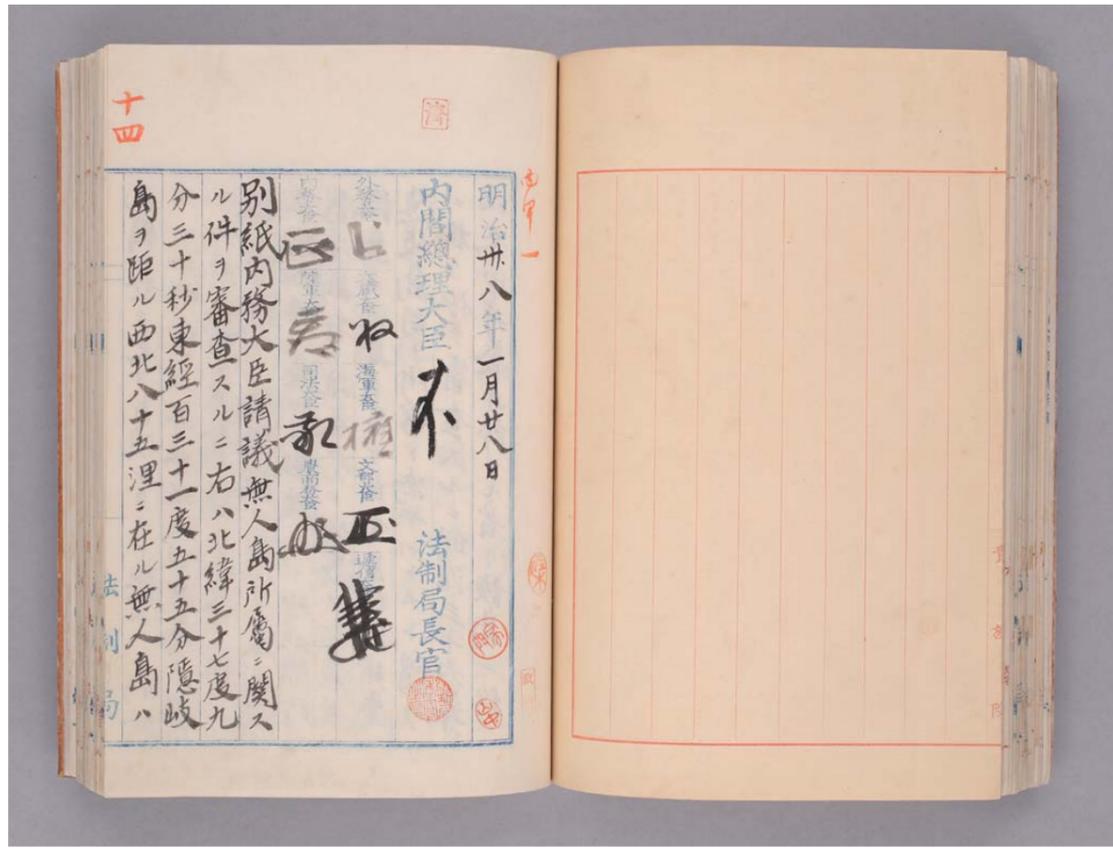


10 隠岐島ヲ距ル西北八十五哩ニ在ル無人島ヲ竹島ト名ケ島根県所属隠岐島司ノ所管ト為ス

内務大臣子爵芳川顯正請議の、無人島を竹島と名付け島根県隠岐島司の所管とすることを閣議決定した文書。

作成年月日 : 1905年(明治38年)
 編著者 : 内閣
 発行者 :
 収録誌 : 公文類聚・第二十九編・明治三十八年・第一巻
 ・政綱・帝国議会・行政区・地方自治・雑載
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 2ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 国立公文書館
 利用方法 : 国立公文書館で利用許諾手続きを行う

内容見本:
 無人島所属ニ関スル件(略)北緯三十七度九分三十秒東経百三十一度五十五分隠岐島ヲ距ル西北八十五哩ニ在ル無人島ハ他國ニ於テ之ヲ占領シタリト認ムヘキ形跡ナク一昨三十六年本邦人中井養三郎ナル者ニ於テ漁舎ヲ構ヘ人夫ヲ移シ獵具ヲ備ヘテ海驢獵ニ着手シ今回領土編入竝ニ貸下ヲ出願セン所此際所属及島名ヲ確定スルノ必要アルヲ以テ該島ヲ竹島ト名ケ自今島根縣所属隠岐島司ノ所管ト為サントス
 ト謂フニ在リ依テ審査スルニ明治三十六年

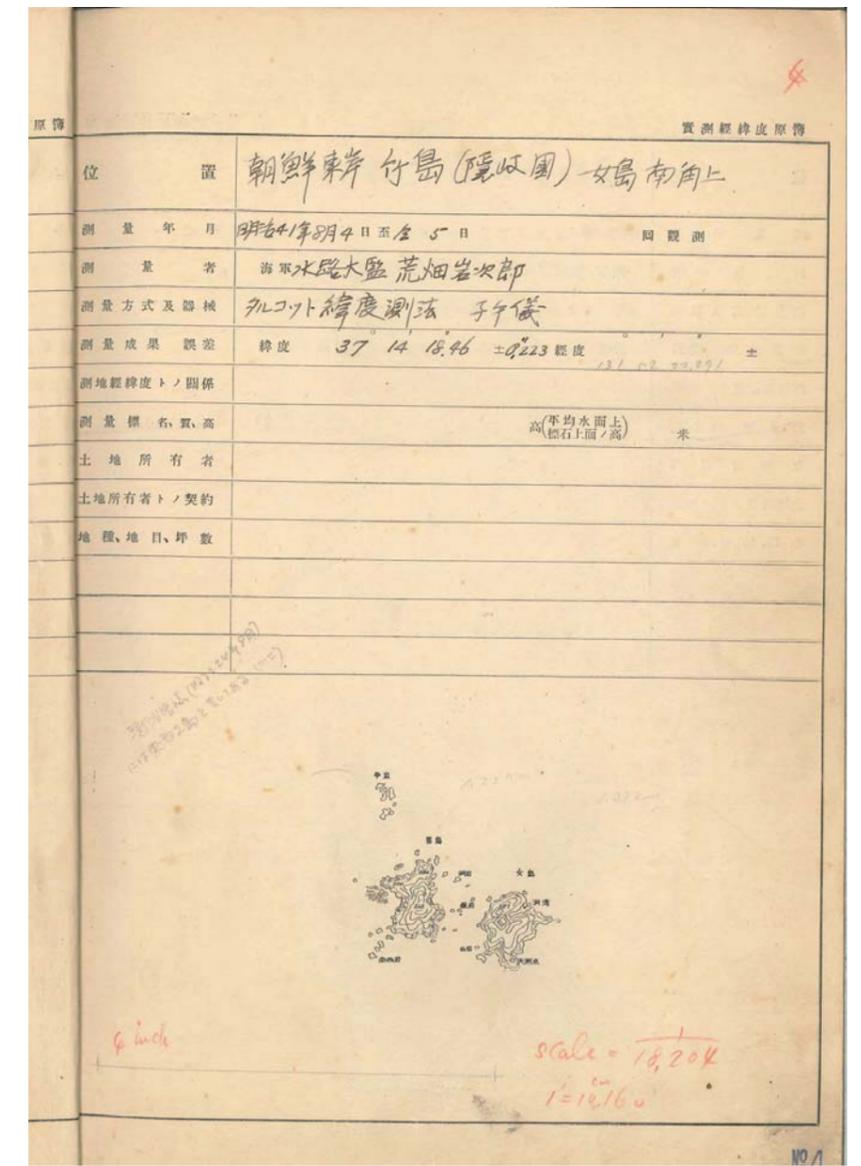


11 経緯度実測原簿

水路部が経緯度を実測した記録の原簿。明治41年8月に測量した竹島の実測図が記載されている。

作成年月日 : 1908年8月(明治41年)
 編著者 : 海軍水路部
 発行者 : 海軍水路部
 収録誌 :
 言語 : 日本語
 媒体種別 :
 数量 :
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 海上保安庁
 利用方法 :

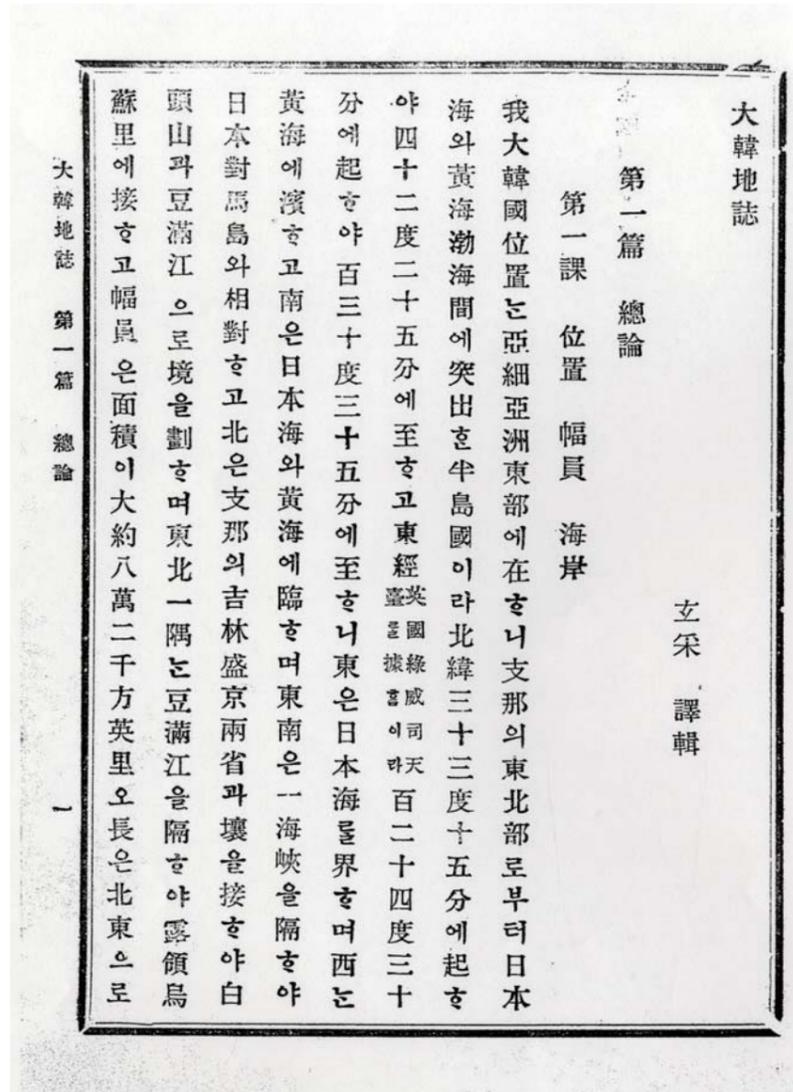
内容見本:
 位置 朝鮮東岸 竹島(隠岐国) 女島 南角上
 測量年月 明治41年8月4日至全5日



12 大韓地誌

大韓帝国時代の地理教科書。第一篇の総論で「我大韓国」は東経130度35分までとある(竹島は、東経131度52分に位置している)。初版は1899年。

作成年月日 : 1906年
 編著者 : 玄采
 発行者 :
 収録誌 :
 言語 : 韓国語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 10ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 国立国会図書館
 利用方法 : 国立国会図書館で
 利用許諾手続きを行う
 内容見本 : 東経百三十度三五分

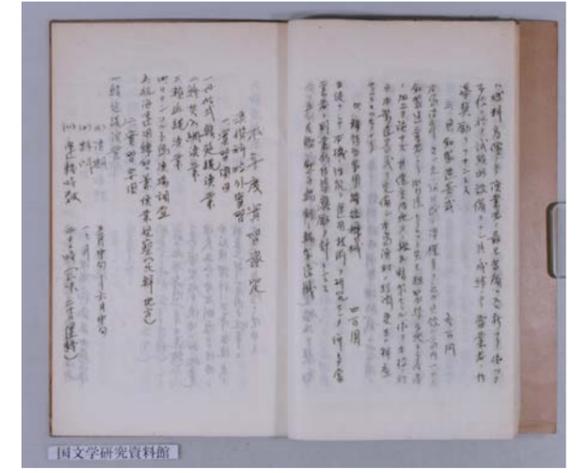


13 島根県立商船水産学校一覧

隠岐にあった島根県立商船水産学校の昭和9年度の学校要覧。がり印刷。「本年度実習予定」の項に、竹島が記載されている。

作成年月日 : 1934年(昭和9年)
 編著者 :
 発行者 :
 収録誌 :
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 22ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 大学共同利用機関法人人間文化研究機構
 国文学研究資料館
 利用方法 : 国文学研究資料館で利用許諾手続きを行う

内容見本:
 四、リヤンコルト島漁場調査

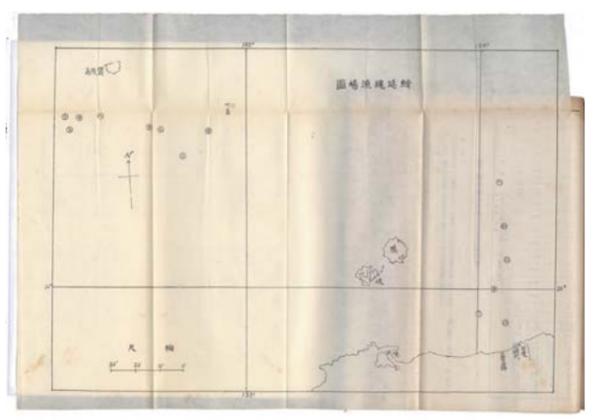


14 昭和七年度 昭和八年度 鳥取県水産試験場事業報告

1932年6~7月と1933年5~6月に鬱陵島と竹島との間の海域で行われたサバ延縄漁の試験報告。

作成年月日 : 1934年8月20日
 編著者 : 鳥取県水産試験場
 発行者 : 鳥取県水産試験場
 収録誌 :
 言語 : 日本語
 媒体種別 : 紙
 数量 : 24ページ
 公開有無 : 有
 所蔵機関 : 国立大学法人東京海洋大学附属図書館
 (品川キャンパス)
 利用方法 : 東京海洋大学品川キャンパス図書館で利用許諾手続きを行う

内容見本:
 無人島竹島(ランコ島)は隠岐国より北西約八十哩の海上にあり周囲約一里にして東風西風の時には少くとも三〇噸以下の船なれば数隻碇泊すを得べく更に同地を根拠地として鬱陵島近海へ出漁する最も本県として利用すべき適地なることを実地調査せり

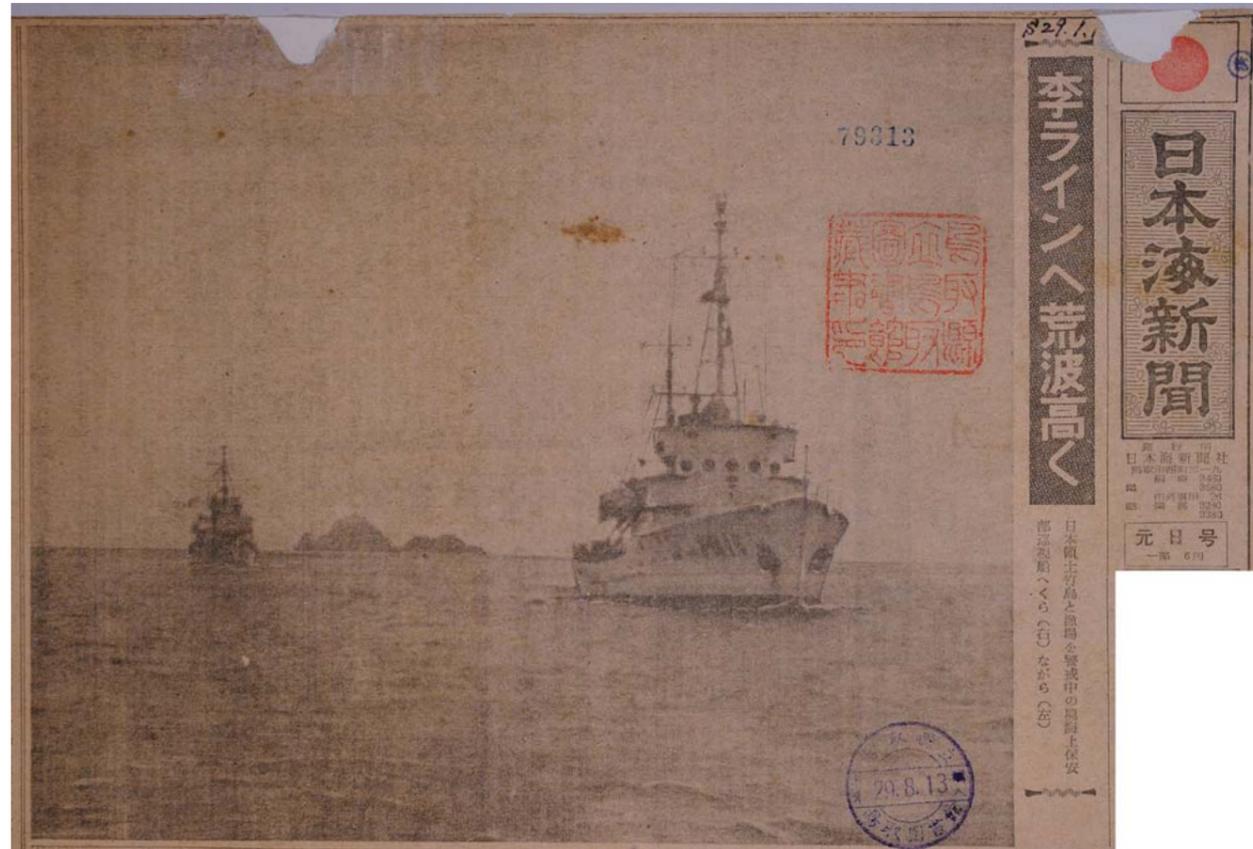


資料例3

15 李ラインへ荒波高く

竹島近海を哨戒する境海上保安部巡視船「へくら」と「ながら」の写真を掲載した1954年元旦一面の記事。

作成年月日	: 1954年(昭和29年)1月1日	内容見本:	
編著者	:	日本領土竹島と漁場を警戒中の境海上保安部巡視船へくら(右)ながら(左)	
発行者	: 日本海新聞社		
収録誌	: 日本海新聞		
言語	: 日本語		
媒体種別	: 紙		
数量	: 1ページ		
公開有無	: 有		
所蔵機関	: 鳥取県立図書館		
利用方法	: 鳥取県立図書館で利用許諾手続きを行う		



16 日本海のまもり きょうもゆく「ながら」

巡視船「ながら」の後部甲板越しに竹島の西島が見える写真とともに、海上保安庁巡視船の哨戒活動を伝えている。

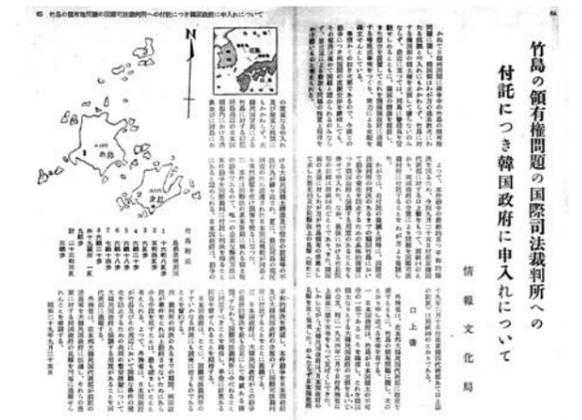
作成年月日	: 1954年(昭和29年)1月12日	内容見本:	
編著者	:		
発行者	: 日本海新聞社		
収録誌	: 日本海新聞		
言語	: 日本語		
媒体種別	: 紙		
数量	: 1ページ		
公開有無	: 有		
所蔵機関	: 米子市立図書館		
利用方法	: 米子市立図書館で利用許諾手続きを行う		
内容見本	: 一哨戒は一週間から二週間、舞鶴、境、浜田、門司などを基地に帰投する哨戒番の慰労期間外は一年中正月もなければ盆もない。隠岐、竹島、壱岐、対馬、遠くは済州島海域まで文字通り李ラインの特哨出動を繰り返す。		



17 竹島の領有権問題の国際司法裁判所への付託につき韓国政府に申入れについて

竹島問題の国際司法裁判所付託を提議した日本政府の口上書(1954.9.25)及び竹島領有に関する日本政府の見解(1954.2.10)が掲載されている。

作成年月日	: 1954年(昭和29年)11月	内容見本:	
編著者	: 外務省情報文化局		
発行者	: 国際経済研究所		
収録誌	: 『海外調査月報』4巻11号		
言語	: 日本語		
媒体種別	: 紙		
数量	: 8ページ		
公開有無	: 有		
所蔵機関	: 国立国会図書館		
利用方法	: 国立国会図書館に閲覧申請を行い、マイクロフィルムによる閲覧を行う		



内容見本:
かねて日韓両国間に係争中の竹島の領有権問題に関し、韓国側はわが方の過去数次にわたる抗議と申入れにもかかわらず、竹島に対する韓国側の領土権を主張して譲らないのみならず、最近に至っては、(略)実力による支配を確立せんとしている。

8 あとがき(研究チーム)

今年度(平成27年度)の「竹島に関する資料調査及び資料編纂」事業は、事業初年度であった昨年度(平成26年度)とはいくつかの点で異なったものとなった。

第一に、対象地域が鳥根県から鳥取県及び東京都に広がったことである。鳥取県の竹島との関係は深い。

17世紀に現在の鳥取県米子市の大谷(大屋)・村川両家が幕府の許可を得て、鬱陵島や、隠岐から鬱陵島に行く途中にある竹島で漁猟を行ったことは、日本の竹島に対する歴史的権原というべきものである。

明治時代に「りゃんこ島領土編入並ニ貸下願」を内務省等に提出した中井養三郎は現在の鳥取県倉吉市の出身であった。その結果としての1905年1月の鳥根県編入措置によって、日本の竹島に対する領有権は再確認された。

戦後、韓国による不法占拠が進行する中で竹島の巡視活動にあたったのは、鳥取県の境海上保安部所属の巡視船であった。

このような背景により、鳥取県に残る、具体的かつ詳細な情報を含む資料を新たに調査した。大谷・村川両家の渡海の実態や、鳥取藩が献上品として「竹島鮑」や「松島円干鮑」を用いたことが確認できたのは、その成果である。

東京都については、国立公文書館と

国立国会図書館を中心に、その他主だった各関係機関所蔵の明治政府の公文書や関連資料の所蔵確認・収集に努めた。その際、これまでに発掘・公開された重要な史料については、特に注意を払いつつ調査した。

その過程において、これまで写真のみの確認にとどまっていた村川家所蔵とされる松島(現在の竹島)絵図の明治28年の写が東京大学史料編纂所で新たに確認されるなどの大きな成果も得られた。

第二に、昨年度の調査の対象時期は、時間と人的資源の制約などもあり、20世紀以降に限定されたが、今年度は17世紀にまで遡ったことである。鳥取県立博物館所蔵の鳥取藩政資料や鳥取県内に所在する大谷・村川両家関係資料に加え、国立公文書館や外務省外交史料館が所蔵する明治政府の公文書等一連の関連資料を悉皆的・包括的に調査・収集することができた。

これにより、江戸時代から明治時代を通して、我が国が竹島の領有権を放棄したとか竹島が朝鮮国や大韓帝国に領有されたといった事実は一切ないことを示す資料を収集できたことは、韓国の主張に反論するためにも特筆すべきことである。

第三に、竹島の利用についての新た

な側面を発見できたことである。1930年代に鳥根・鳥取両県および朝鮮総督府の水産試験場が竹島・鬱陵島間海域で行ったサバ延縄漁業試験や、隠岐にあった鳥根県立商船水産学校の竹島周辺での同漁業の校外実習計画などの資料を確認できた。

竹島での漁猟について従来知られてきたのは、アシカ猟やワカメやアワビといった根付の海産物を対象としたものであった。今後は、竹島を含む海域の利用をはじめとして、日本人と竹島との多面的な関わりを解明し、日本による平穏な実効的支配の継続があったことを示していきたい。

今年度の調査結果が、今後、事実に基づいた実証的な竹島研究を積み重ねていく基礎資料となれば幸いである。特定の資料のそのまた一部のみを取り上げるのではなく、関連資料全体から課題が考察されることを願う。また、資料が現代語訳され、概要等が英語で発信されることにより、研究者のみならずより広範囲の人々の間でも竹島問題への認識が深まることも望まれるところである。

最後に、本事業を進めるにあたって、下記の諸機関及び個人の多大なるご協力を頂いたことを記すとともに、感謝の意を表したい。

(調査先)	
鳥根県総務部総務課	鳥取県公文書館
鳥根県公文書センター	鳥取県立図書館
鳥根県竹島資料室	鳥取県立博物館
鳥根県飯南町	鳥取県水産試験場
鳥根県水産技術センター	境港市民図書館
鳥根県立図書館	米子市立図書館
鳥根県浜田市立図書館	米子市立山陰歴史館
浜田市浜田郷土資料館	倉吉博物館
鳥根大学附属図書館	隠岐の島町役場
株式会社山陰中央新報社	隠岐の島町立図書館
新日本海新聞社	西ノ島町教育委員会
石見安達美術館	西ノ島ふるさと館

国立公文書館
 外務省外交史料館
 国立国会図書館
 防衛省防衛研究所図書館
 海上保安庁
 国文学研究資料館
 東京都公文書館
 東京大学総合図書館
 東京大学史料編纂所
 東京大学東洋文化研究所
 東京大学大学院法学政治学研究科附属
 近代日本法政史料センター
 (明治新聞雑誌文庫、原資料部)
 国立研究開発法人水産総合研究センター
 中央水産研究所図書資料館
 東京海洋大学附属図書館(品川)
 個人

研究チーム調査統括 藤井賢二